

		選択薬・当院汎用薬	選択薬推奨薬
薬 剤 区 分	鎮痛消炎腫脹緩解	ロキソプロフェン錠 セレコキシブ錠	ナイキサン錠 (成分名:ナプロキセン)

※1参考ガイドライン・文献:「慢性疼痛ガイドライン」「頭痛診療ガイドライン」「関節リウマチ診療ガイドライン」「消化性潰瘍ガイドライン」「癌疼痛薬物療法ガイドライン」「ポケット医薬品集」他

- NSAIDS 使用決定はアセトアミノフェン(カロナール)も考慮し実施
- NSAIDS の効果差は薬剤間では認められていない、かつ特定の使用推奨はない
- 消化管障害参考:非選択性 COX 阻害剤+PPI = セレコキシブ

【詳細】 ◎選択薬特徴について

- ★ロキソプロフェン錠: ①頭痛治療でのエビデンスの確実性が高い②WHO 方式癌疼痛治療リスト薬
③急性上気道炎の適応がある
- ★セレコキシブ錠: ①消化管障害軽減+, NSAIDS 潰瘍発生率↓既往によっては PPI との併用も推奨されている
②WHO 方式癌疼痛治療リスト薬③適応領域は狭い
- ★ナイキサン錠: ①頭痛治療でのエビデンスの確実性が高い②痛風発作に対し保険適応がある(適応領域が広い)
③NSAIDS は心血管イベント増大の可能性があるが「適応範囲内ではみられない」報告。
④WHO 方式癌疼痛治療リスト薬⑤唯一後発医薬品ではない(安価ではある)

NSAIDS 内服剤 清水さくら病院

院内フォーミュラー比較表

成分名	ロキソプロフェン錠	セレコキシブ錠	ナイキサン錠
採用剤形・力価	60mg 後発品	100mg 後発品	100mg 先発品
薬価 (円/錠)	10.5	6.3	6.3
用法用量	1日3回180mg 頓用120mg/回迄	1日2回 200～400mg	1日2～3回 300～600mg
適応症比較 (外傷後疼痛は全適応)	●緊張性頭痛急性期に推奨 ●癌疼痛治療 ●急性上気道炎の適応あり	●癌疼痛治療	●片頭痛急性期に強く推奨 ●緊張性頭痛急性期に推奨 ●がん疼痛治療、腫瘍熱
有効性・安全性面		消化性潰瘍発生率が低い 心血管イベント発生率が高い (警告有)	消化性潰瘍発生率が高い 心血管イベント発生率が低い
腎・肝機能障害時	重篤時は投与禁忌 具体的数値記載なし		
半減期(hr)	1.3	7	8～16

【参考資料】

★フルルビプロフェン注射剤(ロピオン注) 筋注は禁

適応は「術後・各種がんでの鎮痛(内服不能・効果不十分時)」

効果発現目安:術後鎮痛15min、1～5hr以上持続、がん鎮痛30min、3～12hr持続

★アセトアミノフェン製剤(カロナール錠、アセリオ注)

特徴:NSAIDS ではない、血小板への影響なし、肝障害をモニター

適応は「各種鎮痛・解熱、急性上気道炎に適応あり」

半減期:3hr、最高血中濃度到達時間: 内服30min 注射15min